

第66回 岐大祭を開催しました テーマは「つむぐ」

平成26年10月30日(木)～11月2日(日)

「岐大祭」は、学生の正課研究、学術文化活動および課外活動の祭典です。今年のテーマは「つむぐ」。人との「つながり」、当日までの「物語」、岐大祭を思う“心”を大切に、それらを「つむぐ」場を提供したいとの願いが込められました。

毎年恒例のみこしまつりをはじめ、コスプレコンテスト、お笑いライブなどが開かれ、ゼミやサークル、各種有志グループが学生主体で祭りを創り上げました。あいにくの天候にも関わらずたくさんの方々にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。ありがとうございました。



第29回 岐阜シンポジウムを開催しました

平成26年11月1日(土)

「クールジャパンを支える微生物学」をテーマに「岐阜シンポジウム」を開催しました。国家戦略の“クールジャパン”の遂行には微生物学が重要な役割を担っていることが紹介されました。名古屋大学大学院経済学研究科の佐藤宣之教授が基調講演を行い、本学からは応用生物科学部の中川智行教授、生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野の須賀晴久准教授、大学院医学系研究科の江崎孝行教授が講演しました。



岐阜大学医学部・同附属病院 移転10周年記念行事を開催しました

平成26年11月22日(土)

医学部・同附属病院が現在地に移転してから10年が経過し、記念行事が行われました。教職員や在校生、同窓生など約70人が参加した「ホームカミングデイ」では、歴代病院長が歩みと今後の展望を語る座談会や、OB・OGによるスピーチ、意見交換会などを開催。また、「記念式典」には約100人が出席し、移転10周年を祝うとともに未来への期待が語られました。



第42・43・44回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成26年11月5日(水)・12月8日(月)・平成27年1月26日(月)

一流の研究者や企業人を招き、年数回開催している「岐阜大学フォーラム」。11月5日(水)の第42回では、名和昆虫博物館館長の名和哲夫氏が「昆虫と環境～昆虫から自然を楽しく学ぶ～」と題して、動物界のピラミッドの底辺をなす昆虫類の重要性について述べられました。12月8日(月)の第43回では、首都大学東京理事副学長の江原由美子氏が「グローバル化時代の大学のダイバーシティ推進～男女共同参画をふまえて～」をテーマに講演されました。1月26日(月)の第44回では、高知大学副学長の受田浩之氏が「地方創生における大学の役割～課題先進県の再生を目指して～」について、岩手大学教授の小野寺純治氏が「産学官連携による地域リノベーションへの取り組み～INSから始まった地域連携活動と苦悩～」について話されました。



保健管理センター 全学生を対象に栄養アドバイスを実施しました

平成27年2月・3月

保健管理センターは、定期健康診断の機会を利用して全学生に食生活の個人指導・アドバイスを実施しました。これは岐阜県栄養士会の協力を得て、学生自身が記入した過去3日間の食事記録を基にして管理栄養士が面談を行い、ワンポイントアドバイスをを行うものです。大学生を対象とした食育指導は全国的にも少なく、先駆的な取り組みです。調査した食事内容は統計的に解析し、大学生の食生活の実態を明らかにする予定です。



中部地区COC事業採択校 学生交流会を開催しました

平成27年3月5日(木)

岐阜大学と金沢工業大学が幹事となり、「中部地区COC事業採択校学生交流会」を開催し、12大学の学生や教職員、自治体関係者など約120人が参加しました。各大学の学生が地域連携活動の成果を発表すると、熱心に質疑応答がなされ、学生同士が刺激し合う場となりました。今後、地域志向教育の活性化や学生ネットワークの拡大が期待されます。



ボゴール農科大学にて国際ワークショップ を開催し、共同実験室を開設しました

平成26年12月1日(月)～3日(水)

大学院連合農学研究科の千家正照研究科長ほか12人が、インドネシアのボゴール農科大学(IPB)とスプラス・マレット大学(UNS)を訪問しました。1日(月)にはIPBのInternational Convention Centerにて、天然物化学をテーマにした国際ワークショップを開催。2日(火)にはIPBのバイオファルマーカ研究センターにて共同実験室の開所式を行いました。3日(水)にはUNSに準備中の共同実験室を訪問し、実験機器の設置について話し合いました。



岐阜大学と岐阜県が全国初の企業誘 致連携協定を締結しました

平成26年12月17日(水)

岐阜大学産官学連携推進本部は、岐阜県商工労働部と「企業誘致・定着促進に関する連携協定」を締結しました。地域の企業を自治体と大学が連携してサポートする体制を構築することにより、企業誘致・定着を促進させることが目的です。今後は、岐阜大学の産学連携コーディネーターが岐阜県職員と合同で企業を訪問し、技術面や経営面から総合的な支援を行うほか、県内に魅力ある企業を増やすことによって学生たちの就職促進にもつなげていきます。



タイのシーナカリンウィロート大学と 学術交流協定を締結しました

平成27年3月17日(火)

教育学部とシーナカリンウィロート大学教育学部は、教員養成に関する組織的・計画的な研究者の交流や情報交換などを推進するため、学術交流協定を締結し、岐阜大学で調印式を行いました。この提携により、タイで課題となっている特別支援教育分野の教員養成への貢献と、本学部においてはグローバルな視点を持った教員の養成などが期待されます。



岐阜フットボールクラブと 環境に関する覚書を締結しました

平成27年3月18日(水)

岐阜大学と株式会社岐阜フットボールクラブ(FC岐阜)は、「岐阜大学と岐阜フットボールクラブとの環境保全における連携に関する覚書」を締結しました。この覚書は「環境保全活動の啓発」「環境分野における地域貢献活動」「環境マインドの醸成」「人的資源及び施設の相互利用」などにおいて連携を図ることが目的です。調印式には、FC岐阜の恩田聖敬社長や森脇久隆学長、サッカー部監督と学生22人などが出席しました。



第1回 国際ジョイントミーティングを開催しました

平成26年12月17日(水)・18日(木)

工学部は、密接な関係にある海外協定大学との第1回国際ジョイントミーティング(国際合同会議)を2日間にわたって開催しました。海外協定大学の学長、学部長、リエゾン(交流)担当教員など13カ国23大学46人を招き、教育システムや留学制度など、国際交流に関する取り組みについて情報・意見交換を行いました。今後、国際ジョイントミーティングを継続的に行うことで、各大学とより深い協力関係の構築や国際能力に優れた学生の育成、教育・研究活動の活性化を目指します。



◎1日目

本学からは、今年4月に開講した日本人学生と留学生が共に英語で学ぶ「グローバル環境・エネルギーコース」をPRし、海外協定大学は各大学の沿革、教育目標などを紹介。総合討論では大学同士のネットワーク形成などに関して議論しました。バンケットでは津軽三味線の演奏やカラオケなどが披露され、大いに盛り上がりました。



◎2日目

海外協定大学のグローバル化への取り組みについて紹介があった後、総合討論を行いました。また、スーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されている岐阜県立大垣北高等学校の生徒との交流会や工学部の研究室見学会も実施。閉会式では六郷恵哲工学部長から各大学へ共同宣言が手渡され、盛況のうちに終了しました。



岐阜県と新たに2つの協定を 締結しました

平成27年3月20日(金)

岐阜大学と岐阜県は防災と医療の分野での連携を更に深める協定を締結しました。防災面は、構内に設置する「清流の国ぎふ 防災・減災センター」に関する協定で、センター長に杉戸真太理事が就任し、県の防災や減災のシンクタンク機能を担っていきます。医療面は「慢性腎臓病(CKD)医療連携寄附講座」に関する協定で、寄附講座を設置し、県内で不足する腎臓専門医の人材育成や医療水準の向上を目指します。



平成26年度学位記授与式を行いました

平成27年3月25日(水)

長良川国際会議場にて平成26年度学位記授与式を行い、学部学生1303人、大学院学生494人が卒業・修了しました。森脇久隆学長は「修得した叡智で人類に貢献するという志を持ち、キャリアを積み上げていただきたい」と激励。2人の在学学生代表が送辞を述べた後、卒業生代表の医学部後藤滉平さんと修了生代表の地域科学研究科ZHANG YIDANさんが、「自己研鑽に励み、全力で生きます」「社会発展のため精一杯貢献します」と決意を語りました。

